

校庭の木々の蕾もほころび始め、桐陽台にも春の息吹が感じられるこの佳き日に、広島市立広島中等教育学校第二回卒業式を挙げていただけますことは、卒業生はもとより教職員にとりましても、大きな喜びでございます。

また、本日は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、御来賓の皆様の御臨席や在校生の出席はございませんでしたが、皆さんの門出を祝福する気持ちはいささかも変わるものではありません。

保護者の皆様におかれましては、六年前の入学時、まだあどけなさが残っていたお子様が、このように逞しく凛とした姿に成長され、感慨も一入のことと存じます。お子様を温かく見守り、支え手塩にかけて育ててこられた今日までのご労苦に対しまして深く敬意を表しますとともに、これまで本校の教育活動に多大なるご支援・ご協力を賜りましたことに、心より厚く御礼申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与した百十二名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

皆さんは本校の六年間の教育課程を終え、本日、晴れて卒業証書を手に入れました。この卒業証書は、皆さんの努力だけでなく、ご両親をはじめとしたご家族、先生方の愛情あふれる支援の賜であることを忘れないでください。

また、この卒業証書は、国内外から捧げられた折り鶴を再生した用紙で作られています。ヒロシマで学び育ったものとして、世界の人々と平和への思いを共有し、その実現に力を合わせて欲しいとの願いが込められていますので、そのことも併せて受け止めてください。

私が皆さんに出会ったのは、昨年四月七日の始業式の日でした。その後まもなく、学校は二度目の臨時休業となり、動画により授業やホームルームを行う異例のスタートとなりました。六月に学校を再開しましたが、皆さんが楽しみにしていた最後の昇陽祭や体育祭などの学校行事は残念ながら中止にせざるを得ませんでした。本来ならば、最高学年である皆さんには思う存分力を発揮して良き思い出としてもらいたかったのですが、それは叶わず寂しい思いをさせていただきました。また、猛暑の中、夏休みも大幅に短縮しなければならず、大きな負担をかけることになりました。

しかし、皆さんは私たちが思うよりもはるかに逞しく成長しており、こうした逆境にも心折れることなく、それぞれのめざす志の実現に向けて邁進してきました。

さて、これから皆さんが活躍する社会は、今まさに私たちが実感しているように、人やモノなどのやり取りが国家や地域の垣根を越えて行われるグローバル化やAI、ビッグデータに代表される「デジタル革新」が加速度的に進展していく、先行きが不透明で予測困難な時代とされています。

このような時代の転換期の舵取りを担っていく皆さんに大切にしてもらいたい二つのことを、私からはなむけの言葉として贈ります。

一つ目は、「常に謙虚な心を持つ」ということです。まず、人間という視座からは、私たちは、科学技術を発達させる中で、大方のことを知っている気になっていますが、例えば、宇宙にある物質のうち私た

ちが知っているのはたった四％に過ぎないことや、地球上の生物も八割以上が未発見との研究結果があるように、実際には知らないことのほうがはるかに多いのです。また、人間の認識能力は万能ではないので、量的なことだけでなく質的にも限界があります。ですから、私たち人間は、自然を征服する対象として捉えるのではなく、その中で他の生物とともに共生している存在であるということを謙虚に自覚する必要があります。そのうえで、どのような科学技術を生み出していくべきかという根本的な問いに向き合わなければ、取り返しのつかない過ちを犯してしまうことになりかねません。

次に、一個人としても、自分一人の力には限界があることを謙虚に自覚できれば、他者の話にしっかりと耳を傾け、感謝の気持ちを持つことができ、助け合える良好な関係を築くことができるので協働して大事を成し遂げることができます。また、社会的な立場があがればあがるほど、謙虚さは大切になります。グローバルリーダーとして様々な分野で活躍が期待される皆さんには、他者を権威で従わせるのではなく、心服させることのできる真のリーダーとなってもらいたいと思います。さらに、これからの「知識基盤社会」を生きていくためには、生涯にわたって学び続けなければなりません。そのためには謙虚に自身を見つめ、いわゆる「無知の知」、自分が知りえていないことの自覚を持つことが重要です。そこから学ぼうとする姿勢が生まれ、自身の成長に繋がっていくのです。

このように謙虚さが人生を豊かにする一方で、その対極にある傲慢さは人生最大の病と言われていることも肝に銘じておいてください。自信が過信となり過信が慢心となり、慢心が傲慢とならないよう、常に自分を省みてください。

二つ目は「変化を恐れない勇気を持つ」ということです。皆さんには、社会を生き抜いていくだけでなく、未来の社会を創っていく主体としての自覚を持ち、社会をより良い方向へ変えいく原動力となってもらいたいと願っています。しかしながら、現状を変化させることは簡単ではありません。人は、色々と不満があったとしても、「このままの私」でいることのほうが楽であり、安心なのです。人は現状に対する不満と、まだ見ぬ将来への不安を比較したとき、漠然としていても将来への不安を大きく捉え、変化できない理由を探してしまうのです。皆さんは、コロナ禍による、また、大学入試改革による、激しい変化を市広の信じあえる仲間と支えあって乗り越え、新しいステージへ進もうとしています。この経験を生かし、変化を恐れず前進する勇気を持ち続けてください。卒業は、学校との関係の終わりを意味するわけではありません。本校も皆さんとともに、明るい未来に向けた社会変革の原動力でありたいと願っています。

人生の大切な時期に、中等教育学校である本校ならではの「学び」の中で、かけがえのない仲間と真剣に学び、汗や涙を流しながら切磋琢磨してきた経験と身につけた力は、皆さんにとって生涯の財産となるでしょう。これからも後輩たちを温かく見守るとともに、憧れの先輩として輝き続けてください。

最後に、二期生の皆さん、これからの長い人生においては、コロナ禍の不条理のように思うようにいかないこともあると思いますが、「明けない夜はありません」「やまない雨はありません」、決して諦めないでください。

市広生としての誇りと自信を胸に、希望に満ちたそれぞれの道を、しっかりと歩まれることを祈念して、式辞といたします。